

大東中学校運営支援協議会会議録

1 会議名 令和7年度第2回大東中学校運営支援協議会

2 開催日時 令和7年10月21日(火)14時30分～16時30分

3 開催場所 大東中学校校長室

4 出席者

(1) 委員 藤原良治(会長)、菊池文悦、小島公義、小山充、伊東俊一、及川隆志、佐藤博昭、佐藤福

(2) 事務局 菅原 正浩(校長)、石川純(副校長)

5 協議

(1) 学校の状況、生徒の様子について

資料に基づき説明を行い、質問・意見をいただいた。

- ・PTA活動の草刈りはたくさんの協力を得られたが、PTA会員数も減るが敷地は変わらず、大変な作業量になる。環境整備に関しては外部業者への委託等、予算を確保してもらうことを考えていくべき。
- ・地域とのつながりにおいては、各地区の祭りに吹奏楽部演奏発表や、たくさんのボランティア生徒が来てくれたおかげで助かった。
- ・社会体験学習で生徒を受け入れたが、「何でもやりますよ」と積極的に取り組もうとする生徒たちであり、色々な仕事を任せてたくさん経験させることができた。大東中学校の生徒は素直な子が多い。
- ・生徒たちの様子を見てみると、荒れた様子や問題行動もなく、今は落ち着いていると感じる。
- ・今の子供たちは、トラブルに直面したり怒られたりする機会が少なく、逆に心配。いざ世の中に出たときに本当にやっていけるのか心配だ。
- ・生徒数が少なくなり、子ども同士で喧嘩したり謝ったり解決したりする機会が減っている。
- ・学びフェスタアンケート結果を見ると、家庭学習や情報メディアの適切な利用に関して3年生の数値が低いのが気になる。
- ・3年生は自己認知能力が高くなってきているので、文言をしっかりと捉えて自己と照らし合わせて不十分と判断し、低い数値で自己評価した部分もあるのではないだろうか。

(2) スマートフォン・タブレットの使い方について

(質) タブレットがない時代と比べて、タブレットを活用することで学習効果は上がっているのか。自分自身もパソコンを使うことによって、漢字や文章が書けなくなってきている。

⇒タブレットを使うことによって、今の社会に必要なデータ活用、情報収集スキルは身につけてきていると思う。授業では、効果的で正しい使い方ができるかどうか的大事であり、学習効果が上がるよう工夫して活用している。

(質) 動画を見たりゲームをしたりする生徒がいると大変なのではないか。中学校ではスマートフォンは持ち込んでいないのか？

⇒スマートフォンについては、基本的には持たせない。家での時間の過ごし方でSNS関係に時間を多く費やす生徒がみられる。家庭学習や読書の時間の減少にもつながっていることが課題です。

(質) 大東中の先生方は、タブレットを積極的に活用できているのだろうか。

⇒先生方は、比較的積極的に活用できていると思う。構成平均年齢が若くスキルの高い先生方も多い。授業では常にタブレットを開き、基本どの教科でも活用している。

(主な意見等)

- ・家庭でもタブレットが手放せなくなっている。動画を見ていると時間があっという間に過ぎていくし、小さな子供を抱える母親も、手が離せないときは子どもをあやす手段としてタブレットのアプリや動画を使っている状況である。まだ幼い子供が、タブレットが日常の世界で生活するのが現状である。
- ・対照的に、小さな子どもが虫取りや川遊びなど、自然と触れ合うことに夢中になる様子を目にすると、やはり本能として自然に興味・関心を持っていると感じる。
- ・地域でボランティア活動を終えた生徒が川で無邪気に遊ぶ姿を見て、なんでそんなに楽しいんだと思ったことがあった。自分が子どもの時は自然の中で遊ぶことが当たり前だったが、今の子どもたちはそうではないのだと改めて感じた。
- ・スマートフォン、タブレットについては、利用する最初の段階で正しい使い方について教える必要があると思う。生徒指導上においても最初が肝心であると感じる。
- ・情報モラルについては、保護者がたくさん集まる機会に実施したい。当面、新入生保護者説明会がその場であり、昨年度も情報メディアに関する講話を企画した。